

名古屋大学における保健管理体制についての稗田阿礼

元編集委員 佐藤 祐造

私は昭和四十（一九六五）年に本学医学部を卒業、一年間のインターン（実地修練）を経た後大学院に入学、四十五年に修了した。当時は大学紛争華やかなりし頃で、人命の尊重と保健管理体制の充実を目的として、全国の国立大学に保健管理センターが設置されつつあった。本学にも設置をめざして、四十四年には、保健委員会が評議会の了承を得て組織され、文部省に積極的に働きかけた結果、四十六年に保健管理センターが発足した。これに先立つ前年に学内措置として、保健管理業務実施のため、学内流用定員にて、講師一、助手二が認められていた。大学院修了後、内科学教室（第三）の副手、その後非常勤医員として勤務していた私は、医学部助手、厚生課勤務併任を拝命したが、当時の教室主任の山田弘三教授は「二―三年東山で修業していれば鶴舞（医学部）に戻してやるから」と言われた。以来、二十五年余、保健管理センターは、五十年に教養部保健体育科と合併、現在の総合保健体育科学センターとなり、私も、同センター助手から、講師、助教授を経て、教授となり今日に至っている。国立大学の専任学校医として勤続年数の面から、また助手から教授、センター長に就任する迄勤めたという点で例があまり存在しないと思う。

大学史委員にはそれまで委員であった山田久恒教授が他大学へ転出された後任として、保健管理部門で最古参という理由で私が出された。

部局史執筆にあたって、教養部保健体育科についての記述は主として教養部に御願いすることとし（一部はセン

ター独自に中島教授が執筆された)、センター設立までの前史として、本学における保健管理体制の進展について私が執筆した。

幸い「保健管理センター年報」創刊号(昭和四十六、四十七年合併号)に当時の学生部次長牧島久雄先生がまとめられた「名古屋大学における保健管理体制の進展」が掲載されており、貴重な資料として活用させていただいた。この場を借りて厚く御礼申し上げる次第である。本学において、保健管理センターは組織上、昭和四十六年四月より五十年三月迄のわずか四年しか存在せず、通算して三号しか発行されなかった「同センター年報」は発行部数も少なく散逸する可能性が非常に大きかった。今回の五十年史発行にあたって、私と牧島先生以外にはその存在すら、ほとんど忘れられていた資料を活用できたことは、長年に亘って保健管理業務に従事してきた私にとって非常に喜びが大きい。

私は学科目としての「地理」と「歴史」が好きで、現在でも学会、講演等で出張すると余暇時間に戦国時代を中心とした城跡を散策することを趣味としている。留学生の検診にあたってもそれぞれの国の地理等について話題にして、*I like geography and history, but I don't like medical science.*と冗談を言ったりしている。

その歴史好きの私に部局史執筆の機会が得られたというタイミングの良さ(五十年史発行の時に、それなりの年齢で勤務している)に感謝したい。また、関係者のご尽力に厚く御礼申し上げ、筆を擱きたい。なお、当センターの部局史については、体育科学部教官ことに中島豊雄教授とも分担し、保健管理業務のみでなく、保体センターの教育研究全般について記述したことは改めて述べるまでもない。

(総合保健体育科学センター長)